

令和6年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小音3】
【分科会】小学校音楽科 **【実施日】令和6年12月9日（月）**

担当大学名	東京藝術大学			
会 場	(会場名) 東京藝術大学 上野キャンパス			
	(所在地) 東京都台東区上野公園12-8			
講 師 (肩書・氏名)	岩井智宏（桐蔭学園小学校教諭），市川恵（東京藝術大学准教授）			
対 象	小学校音楽科担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	40名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	系統性を見据えた音楽科の学習指導計画の工夫			
研修内容の概要	音楽授業を系統的に、また発展的に展開するためには綿密な指導計画が欠かせない。音楽科の指導計画には、6年間を見通した指導計画、年間指導計画、各題材の指導計画、各授業の指導計画などがあるが、いずれの学習指導計画においても題材などの内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が重要である。そこで本研修では、音楽科における領域及び分野の系統性を見据えた授業づくりの課題や教材研究の方法を探究するとともに、講師による具体的な実践提案を体験することを通し、学習改善、指導改善に結びつく視点や方法を学ぶ。			
	[学習指導要領との関連] 小学校音楽科：「A表現」（1）「歌唱」ア、イ、ウ、（2）「器楽」ア、イ、ウ、（3）「音楽づくり」ア、イ、ウ、「B鑑賞」（1）ア、イ、〔共通事項〕(1)ア、イ			
内容と方法	本研修では、資質・能力の育成を中核に位置付け、領域および分野の連続性・系統性を考慮した授業づくり、及びそれらを反映させた学習指導計画のあり方について探究する。具体的には、講師の年間指導計画を例として、講師による実践提案を受講生一人一人が経験し、それを授業にどのように生かしていくかについて、各学校の実態と照らし合わせながら、教材選択、指導方法、活動設定等の視点から考えていく。また、グループディスカッションを通して、小学校6年間を見通して音楽の学びを深めていくための課題について理解を深め、各学校の実態に応じた学習指導計画のあり方を考察していく。			
到達目標	1 領域及び分野の系統性を見据えた音楽授業づくりについての知識を得たり生かしたりしながら、各学校の実態に応じた活動を工夫することができる。 2 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて、年間指導計画の立案に生かせる視点と方法を考察することができる。			
スケジュール		実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修		参集
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）		参集
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～15:00	テーマ別実践研修（午後の部）		参集
	15:00～15:15	休憩		
	15:15～15:30	リフレクション		個人作業
	15:30～16:10	グループディスカッション		グループワーク
	16:10～16:40	まとめと質疑応答		
	16:40～17:00	視学官による全体講評		
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	筆記用具			
特記事項	○資料の配布方法：当日配布 ○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等：学内に学食はございますが、昼食時は混雑が予想されます。			

令和6年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小音4】

【分科会】小学校音楽科

【実施日】令和6年12月10日（火）

担当大学名	エリザベト音楽大学			
会 場	（会場名） エリザベト音楽大学			
	（所在地） 広島県広島市中区幟町4-15			
講 師 （肩書・氏名）	三村真弓（エリザベト音楽大学教授） 松波匠太郎（エリザベト音楽大学講師） 川上統（エリザベト音楽大学准教授） 壬生千恵子（エリザベト音楽大学教授）			
対 象	小学校音楽科担当教員等	定員 （該当欄に○）	参集 ○ オンライン	50名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	音楽の授業をより豊かにするためのポイント～低学年の音楽表現、ICTと音楽づくり～		
研修内容の概要	①低学年の音楽表現について ②ICTを用いた音楽づくりの理論と実践（基礎からAIまで）		
	[学習指導要領との関連] 【小学校音楽科】「A表現」(1)「歌唱」ア、イ、ウ、(2)「器楽」ア、イ、ウ、(3)「音楽づくり」ア、イ、ウ 〔共通事項〕(1)ア、イ		
内容と方法	①幼児教育とのつながりに着目して、低学年の授業展開における音楽表現の特性について学びます。 ② ICT機器を使用して、「音遊びや即興的に表現する」活動及び「音を音楽へと構成する」活動の活用方法を基本からAIまで、実践的に学びます。（音楽創作アプリ：Song Maker、Garage Band、電子楽器：miniキーボード）		
到達目標	低学年の音楽表現のあり方について理解し、音楽づくりにおけるICT機器の使用を実践的に知ることを通して、豊かで多様な音楽教育を目指した授業展開や指導に活かせるようになる。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴・教科調査官による講義
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	低学年の音楽表現	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～13:50	ICTと音楽づくり実践1	参集
	14:00～16:30	ICTと音楽づくり実践2	参集
	16:40～17:00	教科調査官による全体講評	
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	iPadあるいはPC 身近にある簡単な楽器やminiキーボードなど		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等：無		

令和6年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小図3】
【分科会】 小学校図画工作科 **【実施日】 令和6年12月13日（金）**

担当大学名	東京造形大学			
会 場	(会場名) 東京造形大学			
	(所在地) 東京都八王子市宇津貫町1556			
講 師 (肩書・氏名)	前半(実技):酒匂克之准教授 石賀直之教授 後半(理論):石賀直之教授 酒匂克之准教授			
対 象	小学校図画工作科担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	材料と場所や空間の関わり方がわかる！高学年の造形遊び「音が生まれる場所」（ICTの活用含む）			
研修内容の概要	自分自身を取り囲む環境とは一体どのようなものか、造形的な視点での「場所や空間の意味」とその価値に気づくための考え方を理解し、さらにどのように材料と関わっていくか事例を見ながら理解していきます。その後、小グループを作り、「音」をテーマに場所や空間を生かす造形活動を行います。実際の活動を通して、活動の過程で生まれる発想や、考えや思いの方向性の再検討といった高学年の造形遊びに見られる学習のあり方について、講師と対話をしながらさらに理解を深めていきます。その後、受講者同士のグループディスカッションにおいて高学年の造形遊びの具体的な題材のあり方について議論していきます。なかなか取り上げられる機会が少ない材料を使った場所や空間を生かした造形遊びの考え方についてより深く学んでいきます。また、高学年の造形遊びにおけるICTの効果的な活用の仕方についても具体的事例をもとに体験していきます。			
	[学習指導要領との関連] 【小学校図画工作科】第5学年及び第6学年／「A表現」(1)ア、(2)ア、「B鑑賞」(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ			
内容と方法	前半 実技講習 酒匂克之准教授 石賀直之教授 1）場所や空間の概念やその特徴の気付き方、場や空間の変容の意味や価値、環境を生かした造形活動におけるICTの具体的な活用方法について理解する。 2）大学内の様々な空間を生かし、様々な材料を使って音を作り出す造形活動を行う。 3）互いの活動を見ながら振り返りを行う。 後半 理論講習 石賀直之教授 酒匂克之准教授 1）前半の実技講習と学習指導要領の関連について理解する。 2）高学年の造形遊びの具体的な題材のあり方についてグループディスカッションを行う			
到達目標	○造形遊びにおける場所や空間の意味とその価値に気づくための考え方を理解する。 ○材料と環境を生かした造形活動を通して学べることやその学習の流れについて理解する。 ○活動の過程で生まれる発想や、考えや思いの方向性の再検討といった高学年の造形遊びに見られる学習のあり方を理解し、その指導法について学ぶ。 ○高学年の造形遊びにおけるICTの効果的な活用の仕方について理解する。			
スケジュール			実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修		動画視聴
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～12:00	講義：材料と環境を生かした造形活動の意味		参集
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～13:10	講義：グループ活動におけるICT機器の活用方法について		参集
	13:10～15:30	実技：材料と環境を生かした音を作り出す活動の実践		グループワーク
	15:40～16:00	講義：学習指導要領から見る実技と造形遊びとの関連		グループワーク
	16:00～16:30	実技 グループワークによる題材作成		グループワーク
	16:40～17:00	全体振り返り		参集
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	受講会場で配布いたします。			
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：なし ○受講する上での環境条件等：なし			

令和 6 年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小図 4】
【分科会】 小学校図画工作科 **【実施日】 令和 6 年 1 2 月 1 3 日（金）**

担当大学名	東京造形大学			
会 場	(会場名)	東京造形大学		
	(所在地)	〒192-0992 東京都八王子市宇津貫町1556		
講 師 (肩書・氏名)	岩瀬大地 教授 小林貴史 教授			
対 象	小学校図画工作科担当教員等	定員	参集 ○	10名
		(該当欄に○)	オンライン	

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	造形活動とサステナビリティ 自然材からかたちに		
研修内容の概要	いま、学校教育のさまざまな場面においてＳＤＧｓの達成に貢献する「持続可能な開発のための教育」を行うことが求められています。ＳＤＧｓとは、サステナビリティ（持続可能性）を可視化するための具体的な指標です。図画工作科の授業では日頃から様々な材料に触れ、そこから発想を広げ自らの豊かな表現へとつなげています。それらの材料は単に子どもたちに与えられ消費されていくモノとしてではなく、造形活動を通して材料がもつ関係性が開かれていくコトとして学習を支え、深めていくことが重要だと考えます。このことはまた、図画工作科の学習に持続可能な社会を実現していくための理解と一役を担うことが期待されているということです。本研修では、サステナビリティの理念を具体的な実技研修をもとに図画工作科の学習にどのように生かしていけるのかについて考えていきます。		
	[学習指導要領との関連] 【小学校図画工作科】「Ａ表現」(1)イ、(2)イ、〔共通事項〕（１）ア、イ		
内容と方法	学内に生息する植物を採取し、切る、煮る、たたくなどの活動を通して、植物の特性をとらえていきます。そして、自らの手でつくった材料を漉きながら成形し新たな形を生み出すこととともに、そこに自然の連鎖を確認していきます。 また、実技研修での体験とともに、社会におけるさまざまなサステナビリティを目指した活動を理解することから図画工作科の授業として主体的・対話的で深い学びにつながる授業をグループごとに構想します。そして、授業構想を発表し、全体で指導のポイントを共有していきます。		
到達目標	学校や地域の実態に応じて、材料とのかかわりや造形活動を通して持続可能な社会づくりへと目を向けていくとともに、児童自らの自己形成へとつながる授業づくりを構想する。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）・植物の採集 ・材料づくり	対面
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～15:00	テーマ別実践研修（午後の部）・漉き、成形	対面
	15:00～15:10	休憩	対面
	15:10～16:30	授業づくりの検討・発表	対面
	16:40～17:00	全体振り返り	対面
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	汚れてもよい服装、靴の準備		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：なし ○受講する上での環境条件等：昼食には学食も利用できます。（学外近隣には飲食店がありませんので、ご注意ください。）		

令和6年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小図5】
【分科会】 小学校図画工作科 **【実施日】 令和6年12月13日（金）**

担当大学名	常葉大学			
会 場	(会場名) 常葉大学静岡瀬名キャンパス (未定)			
	(所在地) 静岡市葵区瀬名1-22-1			
講 師 (肩書・氏名)	長橋秀樹（教育学部教授）、三原信彦（保育学部教授）			
対 象	小学校図画工作科担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	幼・小の連携についての理解と実践力の向上を目的とし、幼児から児童への発達特性を踏まえ、図画工作科で低学年から高学年へと拡張されてきた「造形遊びをする活動」についてその内容を理解し、実践力を養う。			
研修内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児教育の概要を抑えながら、主に幼児の描画活動の発達を理解する。 ・ 子どもの描画についての基本的理解を深める為のワークショップを体験する。 ・ 図画工作科における「造形遊びをする」と「絵や立体、工作に表す」の内容について理解を図る。 			
	[学習指導要領との関連] 【小学校図画工作科】「A表現」(1)ア、イ(2)ア、イ、「B鑑賞」(1)ア〔共通事項〕ア、イ			
内容と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児教育の概要についての考察：幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）を基に「満3歳以上の園児の教育に関するねらい及び内容」（5領域の理解）、「環境を通して行う幼児教育の意義」（園児の活動に及ぼす環境の重要性）、「環境を通して行う幼児教育の特質」（園児を取り巻く環境）等の内容をパワーポイントにより提示・解説。本解説はA表現(1)ア、イ(2)ア、イ〔共通事項〕ア、イに対応している。 ・ 子どもの描画発達についての考察：幼児から児童・生徒までの活動を記録したスライドを基にパワーポイントで解説。本考察は「B鑑賞」(1)アに対応している。 ・ 鉛筆を使用したワークショップ：8つ切り画用紙を支持体に鉛筆で多様な描画の在り方について実践を通して理解を深める。本ワークショップは「A表現」（1）ア、〔共通事項〕ア、イに対応している。 ・ 「造形遊びをする活動」と「絵や立体、工作に表す活動」の構造的理解：小学校学習指導要領解説図画工作科編を基に「造形遊びをする活動」・「絵や立体、工作に表す活動」双方の本質的な差異について考察すると共に、現行教科書に掲載されている具体的事例を参照しながら実践に即した理解を深める。本解説は「A表現」（1）ア、イ、「A表現」（2）ア、イに対応している。 ・ それぞれの項目については、専門講師が担当するオムニバス形式であり、他の講師は実技補助により個別指導を行う。 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児教育と初等教育の連携（発達に関する様態）について深い認識力を持つ。 ・ 子どもの描画について、「感性」と「自己表現」の視点から理解を深め、実践の中で子どもの「創造性」を引き出せる力を養う。 ・ 想像し感じ取った形や色の特徴や美しさを捉える創造的な演習から、指導方法等の授業づくりについて考える。 ・ 多様な表現方法に気付くことで、材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表す学習活動と指導につなげる。 ・ 想像したことを諸感覚を働かせた体全体との係わりを通して、自分の感覚を大切に表す表現の工夫について考える。 			

（次ページへ続く）

	実施内容		実施方法
スケジュール	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴・教科調査官による講義
	10:45～11:00	休憩・会場移動（講義室から演習室へ移動）	
	11:00～12:00	・研修プログラム及びタイムテーブルの説明（30分） ・幼児教育の概要についての考察（レジュメ配布）	スライド視聴
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:00	・子どもの描画発達についての考察（レジュメ配布）	スライド視聴
	14:00～15:30	・鉛筆を使用したワークショップ	参集／個別作業
	15:30～17:00	・「造形遊びをする」と「絵や立体、工作に表す」の構造的理解・教科調査官による全体講評	スライド視聴
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	・筆記用具		
特記事項	○資料の配布方法：研修会当日、会場にて配布 ○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等：制作が伴うため、作業に適した服装が望ましい。		

令和6年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高音4】

【分科会】中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）

【実施日】令和6年12月10日（火）

担当大学名	エリザベト音楽大学			
会 場	（会場名） エリザベト音楽大学			
	（所在地） 広島県広島市中区幟町4-15			
講 師 （肩書・氏名）	佐々木悠（エリザベト音楽大学准教授）、小林良子（エリザベト音楽大学准教授） 三宅悠太（エリザベト音楽大学講師）、中谷政文（エリザベト音楽大学講師） 朴守賢（エリザベト音楽大学講師）			
対 象	中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）担当教員等	定員 （該当欄に○）	参集 ○ オンライン	50名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	授業展開と指導実践のヒント～楽譜の理解、合唱曲の分析と指導実践、合奏指導のポイント		
研修内容の概要	①音楽の源泉―楽譜：ネウマとリズムの理論と実践 ②豊かな演奏のためのアナリーゼと演奏法―合唱曲実践編 ③合奏指導のポイント		
	[学習指導要領との関連] 【中学校音楽科】 第1学年、第2学年及び第3学年／「A表現」(1)「歌唱」ア、イ(ア)(イ)、ウ(ア)(イ)、(2)「器楽」ア、イ(ア)(イ)、ウ(ア)(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ 【高等学校芸術科】 音楽Ⅰ、音楽Ⅱ／「A表現」(1)「歌唱」ア、イ(ア)(イ)(ウ)、ウ(ア)(イ)(ウ)、(2)「器楽」ア、イ(ア)(イ)(ウ)、ウ(ア)(イ)(ウ)、〔共通事項〕(1)ア、イ 音楽Ⅲ／(1)「歌唱」ア、イ(ア)(イ)、ウ、(2)「器楽」ア、イ(ア)(イ)、ウ、〔共通事項〕(1)ア、イ		
内容と方法	①西洋音楽の根源であるネウマとリズムの本質を、実演・実践を通して学びます。 ②合唱指導の要点について、実際の合唱曲を使用したアナリーゼと演奏法を、実演を通して実践的に学びます。 ③合奏指導の要点について、実際の楽曲を使用して実践的に学びます。		
到達目標	西洋音楽のリズムの本質を知る。合唱・合奏の指導の要点を理解し、授業・指導実践に活かせるようになる。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	参集
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴・教科調査官による講義
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	音楽の源泉	参集（講義）
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～15:50	豊かな演奏のためのアナリーゼと演奏法―合唱曲実践編	参集（講義と演習）
	15:50～16:00	休憩	
	16:00～17:00	合奏指導のポイント	参集（講義と演習）
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	特にありません。		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等：無 ○学生食堂はありませんが、近隣に食事のできる店舗やコンビニエンスストアが複数あります。		

令和6年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高音5】

【分科会】中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）

【実施日】令和6年12月10日（火）

担当大学名	公立大学法人 沖縄県立芸術大学			
会 場	(会場名) 沖縄県立芸術大学 (首里当蔵キャンパス 音楽棟4 階41講義室)			
	(所在地) 〒903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵町1 - 4			
講 師 (肩書・氏名)	・音楽学部長兼音楽芸術研究科長 / 教 授 山内 昌也 (琉球古典音楽・野村流) ・教 授 仲嶺 伸吾 (琉球古典音楽・安富祖流) ・准教授 新垣 俊道 (琉球古典音楽・野村流)			
対 象	中学校音楽科・高等学校芸術科 (音楽) 担当教員等	定員	参集 ○	20名
		(該当欄に○)	オンライン	

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	沖縄の伝統音楽の楽しみ方・考え方 ～歌三線から沖縄の伝統音楽の魅力を探る～		
研修内容の概要	<p>日本の最南端に位置する沖縄県は、かつては「琉球」と称されていた。1429年から1879年までの間、約450年に渡り王政の国家を形成し、中国や東南アジア諸国、日本との外交・貿易を通して海洋国家として発展してきた。諸外国との外交や交易をするなかで、様々な芸術や文化も移入しており、それらをもとに独自の文化を築いてきた。このような歴史的背景のなかで育まれてきた琉球古典音楽や民謡には、沖縄の人々の「思い（ウムイ）」が深く込められているのである。そのため、沖縄戦直後は多くの傷ついた人々の心を慰め復興の大きな原動力となり、移民先においても同様に多くの人々に安らぎを与えたとされている。</p> <p>本研修は実技研修を通して、沖縄の伝統音楽のよさや特徴を学ぶだけではなく、三線をはじめ三線音楽が歩んできた歴史的背景を学び、郷土の伝統音楽の存在意義や価値を考える。あわせて郷土の伝統音楽に愛着を持たせるには、どのような指導法や工夫が必要かを考える。</p> <p>〔学習指導要領との関連〕</p> <p>【中学校音楽科】</p> <p>第1学年、第2学年及び第3学年／「A表現」(1)「歌唱」ア、イ(ア)、ウ(ア)、(2)「器楽」ア、イ(ア)、ウ(ア)、 「B鑑賞」(1)「鑑賞」ア(ウ)、イ(イ)(ウ)、〔共通事項〕(1)ア、イ</p> <p>【高等学校芸術科】</p> <p>音楽Ⅰ、音楽Ⅱ／「A表現」(1)「歌唱」ア、イ(ア)、ウ(ア)、(2)「器楽」ア、イ(ア)、ウ(ア)、 「B鑑賞」(1)「鑑賞」ア(ウ)、イ(イ)(ウ)、〔共通事項〕(1)ア、イ</p> <p>音楽Ⅲ／「A表現」(1)「歌唱」ア、イ(ア)、ウ、(2)「器楽」ア、イ(ア)(イ)、ウ、 「B鑑賞」(1)「鑑賞」ア(ウ)、イ(イ)(ウ)(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ</p>		
内容と方法	<p>1 講義</p> <p>・琉球・沖縄の歴史とさまざまな音楽について ・三線（楽器）の構造、楽譜（工工四）、琉歌について</p> <p>2 鑑賞</p> <p>・琉球古典音楽の鑑賞（歌三線 独唱による）</p> <p>3 実技研修</p> <p>・「ていんさぐの花」「安波節」の実技研修</p>		
到達目標	<p>①歌三線独唱により「ていんさぐの花」と「安波節」の演奏ができるようになる。</p> <p>②実技研修、演奏や鑑賞を通して沖縄の伝統音楽のよさや特徴を理解する。</p> <p>③三線をはじめ、三線音楽が歩んできた歴史的背景を学び、伝統音楽の存在意義や価値を理解する。</p> <p>④郷土の伝統音楽に愛着を持たせるための指導法や工夫を学ぶ。</p>		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	音楽棟4階41講義室
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴・教科調査官による講義
	10:45～11:00	休憩	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）「1 講義」・三線の初歩的な扱い方	参集（講義・演習）
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～15:00	テーマ別実践研修（午後の部）「3 実技研修」	参集（講義・演習）
	15:00～15:15	休憩	
	15:15～16:40	琉球古典音楽鑑賞及び成果発表会 「2 鑑賞」「3 実技研修」	参集（鑑賞・演習）
	16:40～17:00	教科調査官による全体講評	
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	・筆記用具 ・三線やパチは大学で用意しますが、持参できる方は持参してください。		
特記事項	○資料の配布方法：当日会場にて配布します。 ○事前・事後課題の有無：特になし ○受講する上での環境条件等：特になし ○学食が利用できます。 ○近隣に飲食店（沖縄そば、カレー、定食など）やコンビニはあります。		

令和6年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高音6】
【分科会】中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽） **【実施日】令和6年12月13日（金）**

担当大学名	京都市立芸術大学			
会 場	(会場名) 京都市立芸術大学			
	(所在地) 京都市下京区下之町 5 7 番 1			
講 師 (肩書・氏名)	栗辻 聡 (京都市立芸術大学音楽学部 非常勤講師)			
対 象	中学校音楽科・高等学校芸術科 (音楽) 担当教員等	定員 (該当欄に ○)	参集 ○ オンライン	30名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	指揮者の実践			
研修内容の概要	学校現場では授業や行事など様々な場面で指揮を行うことがあります。また、合唱や合奏で生徒が指揮を担当することもあります。指揮は音楽科・芸術科音楽の学習で大切にしている協働的な学習にとっても重要な役割を担います。そこで、今回の研修では指揮にスポットを当て、合唱や合奏における楽譜の読み方と音楽の作り方を学ぶとともに、実際に授業で指揮をしたり、生徒に指揮を指導したりする際に役立つノウハウについても身に付けていきます。実際に指揮台に上がり、奏者の皆さんと音楽をすることが少しでも幸福な時間になるよう、どのような「準備」や「心構え」が必要なのかということも含めて、実践を通して考えていただければと思います。			
	[学習指導要領との関連] 【中学校音楽科】 第1学年、第2学年及び第3学年／「A表現」(2)「器楽」ア、イ(ｱ)(ｲ)、ウ(ｳ)(ｴ)、「B鑑賞」(1)「鑑賞」ア(ｱ)(ｲ)(ｵ)、イ(ｱ)(ｲ)(ｵ)、〔共通事項〕(1)ア、イ 【高等学校芸術科】 音楽Ⅰ、音楽Ⅱ／「A表現」(2)「器楽」ア、イ(ｱ)(ｲ)(ｵ)、ウ(ｳ)(ｴ)(ｵ)、「B鑑賞」(1)「鑑賞」ア(ｱ)(ｲ)(ｵ)、イ(ｱ)(ｲ)(ｵ)、〔共通事項〕(1)ア、イ 音楽Ⅲ／「A表現」(2)「器楽」ア、イ(ｱ)(ｲ)、ウ、「B鑑賞」(1)「鑑賞」ア(ｱ)(ｲ)(ｵ)、イ(ｱ)(ｲ)(ｵ)(ｴ)、〔共通事項〕(1)ア、イ			
内容と方法	午前にグノー作曲の「小交響曲」より第1楽章、合唱曲「旅立ちの日に」を題材にスコアリーディングのレクチャーを行います。午後からは受講生の皆さんによる合唱を受講生の方が指揮台に上がりリハーサルを行います（「旅立ちの日に」）。続いてグノーの「小交響曲」より、第1楽章を受講生の方に指揮をしていただきます。事前に実際に指揮をすることを想定して楽譜に目を通しておいってください。			
到達目標	指揮に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい指揮表現について創意工夫する。 生徒の創意工夫を生かした合唱表現や合奏表現を引き出すために必要な指揮の技能を身に付ける。			
スケジュール		実施内容		実施方法
	9:00～9:20	受付		
	9:20～10:20	開講式・理論研修		動画視聴・教科調査官による講義
	10:20～10:30	休憩		
	10:30～11:30	テーマ別実践研修	スコアリーディングレクチャー	参集（講義）
	11:30～12:30	昼食		
	12:30～16:00	テーマ別実践研修	実際に指揮をしてみましょう！	参集（演習）
	12:30～14:00	指揮の実践①	「旅立ちの日に」	参集（演習）
	14:15～16:00	指揮の実践②	「小交響曲」より第1楽章	参集
	16:00～16:10	休憩・会場移動		
	16:10～16:30	教科調査官による全体講評		
	16:30	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	グノー作曲の「9つの管楽器の為の小交響曲」（Petite Symphonie CG560）及び合唱曲「旅立ちの日に」の楽譜を各自ご用意いただき、研修当日にご持参ください。			
特記事項	・実際に指揮をすることを想定し、事前に楽譜に目を通しておいってください。 ・昼食は各自ご準備ください（学校近隣に飲食店やコンビニエンスストア有り。※学生食堂の利用も可能ですが、大変混雑している可能性がございます。）。			

令和6年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高音7】

【分科会】中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）

【実施日】令和6年12月13日（金）

担当大学名	東京藝術大学			
会 場	(会場名) 東京藝術大学 上野キャンパス アーツ&サイエンス ラボ 球形ホール			
	(所在地) 東京都台東区上野公園12-8			
講 師 (肩書・氏名)	今井由喜（渋谷区立渋谷本町学園中学校教諭），市川恵（東京藝術大学准教授）			
対 象	中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	40名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	「創作」と「鑑賞」の相互関連を図った授業づくりの探究			
研修内容の概要	本研修では、「創作」と「鑑賞」の相互の関連を図った授業展開の可能性や課題を探究するとともに、具体的な実践提案を体験することを通して、学習改善、指導改善に結びつく視点や方法を学ぶ。			
	[学習指導要領との関連] 【中学校音楽科】 第1学年、第2学年及び第3学年／「A表現」(3)「創作」ア、イ(ア)(イ)、ウ、「B鑑賞」(1)「鑑賞」ア(ア)(イ)(イ)、イ(ア)(イ)(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ 【高等学校芸術科】 音楽Ⅰ、音楽Ⅱ／「A表現」(3)「創作」ア、イ、ウ(ア)(イ)(イ)、「B鑑賞」(1)「鑑賞」ア(ア)(イ)(イ)、イ(ア)(イ)(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ 音楽Ⅲ／「A表現」(3)「創作」ア、イ、ウ、「B鑑賞」(1)「鑑賞」ア(ア)(イ)(イ)、イ(ア)(イ)(イ)(エ)、〔共通事項〕(1)ア、イ			
	本研修では、「創作」と「鑑賞」の相互の関連を図った学習展開を受講生一人一人が体験することを通して、学習改善、指導改善に結び付く視点や方法を学ぶ。具体的には、「声を用いた創作表現」と「ケチャの鑑賞」を往還させた学習展開等、講師による実践提案を踏まえ、それを各学校の実態に応じてどのように生かしていくかについて、教材選択や活動設定等の視点から考えていく。また、小学校音楽科における「音楽づくり」に関する題材等にも触れ、小学校からの連続性や系統性を考慮した授業づくりについても考えを深めていく。			
内容と方法				
到達目標	1 「創作」と「鑑賞」の相互の関連を図った授業づくりについての知識を得たり生かしたりしながら、各学校の実態に応じた活動を工夫することができる。 2 授業改善に向けて、「創作」及び「鑑賞」の指導法や学習内容に生かせる視点と方法を考察することができる。			
スケジュール		実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修		動画視聴
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）		参集（演習）
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～15:00	テーマ別実践研修（午後の部）		参集（演習）
	15:00～15:15	休憩		
	15:15～15:30	リフレクション		参集（個人作業）
	15:30～16:10	グループディスカッション		参集（グループワーク）
	16:10～17:00	まとめと質疑応答		
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	筆記用具			
特記事項	○資料の配布方法：当日配布 ○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等：学内に学食はございますが、昼食時は混雑が予想されます。			

令和 6 年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高美 4】
【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（美術） **【実施日】令和 6 年 1 2 月 9 日（月）**

担当大学名	金沢美術工芸大学			
会 場	(会場名) 金沢美術工芸大学			
	(所在地) 石川県金沢市小立野2丁目40番1号			
講 師 (肩書・氏名)	畠野裕司（金沢美術工芸大学・教授）（進行：桑村佐和子（金沢美術工芸大学・教授））			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	折り紙建築によるデザインプロセスの理解を深める授業の展開		
研修内容の概要	<p>本研修では中学校における「対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする」や「造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想や構想を練る」ことに重点を置いた授業、高等学校における「対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする」や「造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練る」ことに重点を置いた授業の展開について考える。</p> <p>具体的には、折り紙建築の制作を通して、空間認識能力を養いながらデザインプロセスを学ぶ。デザインプロセスとは課題解決のための思考と行動の一連の流れである。デザインプロセスを学ぶことで、生徒の問題解決能力や創造性を高めることに繋がる授業の展開について考察する。</p>		
	<p>【学習指導要領との関連】</p> <p>【中学校美術科】</p> <p>「A表現」(1)イ(ア)(イ)、(2)ア(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)ア(イ)、イ(ア)、〔共通事項〕(1)ア、イ</p> <p>【高等学校芸術科】</p> <p>美術Ⅰ／「A表現」(2)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)イ(ア)、〔共通事項〕(1)ア、イ</p>		
内容と方法	<p>企業におけるデザイナーの仕事内容を紹介しながら、美術科で学ぶデザイン分野の内容がどのように社会と繋がっているかを理解する。さらに大学で実施しているワークショップを体験することで理解を深め、中・高の授業にどのように活かすかを考える。</p> <p>①企業のデザイナーの仕事の中でも、ディスプレイについて写真資料を用いて実例を紹介し、実社会でのディスプレイ・デザインのエッセンスを学ぶ（空間デザインの基本）。</p> <p>②折り紙建築ワークショップで基本的技法を体験する。</p> <p>③中学美術、高校美術での授業展開についてアイデアを出し合い、今回の体験の振り返りを行う。</p>		
到達目標	<p>①空間デザインの基本を理解する。</p> <p>②折り紙建築の基本的技法を習得する。</p> <p>③それぞれの学校の実態に合わせた空間デザインに関する授業計画を立てることができる。</p>		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴
	10:45～12:00	講義：企業が手掛けるディスプレイ-新入社員からの中堅社員になるまで-	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:00	演習：ワークショップ・基礎（実技）	参集
	14:20～15:50	演習：ワークショップ・オリジナル制作（実技）	各自作業
	15:50～16:00	休憩	
	16:00～16:40	演習：授業への応用の可能性	グループワーク
	16:40～17:00	全体の振り返り	参集
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	特別な道具等は必要ありません。		
特記事項	<p>○資料の配付方法：研修会当日配付</p> <p>○事前・事後課題の有無：無し</p> <p>○受講する上での環境条件等：無し</p>		

令和6年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高美5】
【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（美術） **【実施日】令和6年12月11日（水）**

担当大学名	武蔵野美術大学			
会 場	（会場名） 武蔵野美術大学			
	（所在地） 東京都小平市小川町1-736			
講 師 （肩書・氏名）	保井智貴（武蔵野美術大学彫刻学科研究室教授） 三澤一実（武蔵野美術大学教職課程研究室教授）			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 （該当欄に○）	参集 ○ オンライン	25名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	塑造による自刻像制作　その塊の存在感と空気感			
研修内容の概要	<p>自身の頭部をモチーフに自刻像の制作を行う。可塑性のある粘土を用いて、自身の頭部を通して造形的なオリジナリティを模索する。また、造形的な視点を豊かに働かせながら、塑像を焼成した後、その塊が空間に置かれた際に、どのような存在感と空気感が生まれるのかを想像しながら制作する。作品は乾燥させ焼成し、授業で実践できる新たな題材として提案する。</p> <p>塑造は彫刻の基礎を学ぶ上で適した技法である。塑造制作で使用する可塑性のある粘土は、容易に使う量をかえることが可能であり、主に有機的な形体とその構造と構成を探り形にする上で、有効的な素材である。また、粘土はつくり手の思考性や身体性の感覚が表情として表出しやすい。陶芸など工芸との親和性がある粘土は、日常生活においても身近な素材と言える。本講座では粘土の材質感や焼成による質的变化、特性を理解し、量感、空間、バランス、動勢などの造形的な視点について理解を深めていく。</p>			
	[学習指導要領との関連] 【中学校美術科】「A表現」(1)ア(ア)、(2)ア(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)ア(ア)、〔共通事項〕(1)ア、イ 【高等学校芸術科】美術Ⅰ／「A表現」(1)ア(ア)、イ(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)ア(ア)、〔共通事項〕(1)ア、イ			
内容と方法	<p>鏡と事前に用意した写真をもとに、自刻像の制作を行う。頭部全体の塊を骨格的に捉えることからはじめ、量感、形態感、動きと共に空間的に捉えて塑造制作を行う。制作する際は、粘土との造形的なやりとりの中で表れてくる表情や塊について意識する。作品を焼成する準備のために、塑像の中の粘土をくり抜く。講評会は焼成前の粘土の塊の状態で実施する。研修会が終了した後、本学にて焼成し、後日作品を発送する。所属校や自宅などで作品を設置して写真に撮影する。</p>			
到達目標	<p>塑造制作を通して材料の特質を理解するとともに造形的な視点を豊かにし、塑像の表現に活かす技能を学ぶ。</p> <p>モチーフを観察し材料の特質を生かした発想や構想の能力を身につける。</p> <p>造形的なよさや美しさを感じ取り、彫刻作品の作者の心情や意図と表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。</p>			
スケジュール		実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修		動画視聴
	10:45～11:00	休憩		
	11:00～11:10	研修前の操作確認・オリエンテーション(三澤)		参集
	11:10～11:30	制作に関する説明		参集
	11:30～12:00	塑造制作		参集
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～14:00	塑造制作(適宜休憩を入れる)		参集
	14:00～15:00	焼成準備		参集
	15:00～16:00	発表・講評会（後日、焼成後の塑像を発送する）		参集
	16:00～16:30	講義：まとめ「学習指導要領上の位置づけについて」（三澤）		参集
	16:40～17:00	全体振り返り		参集
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	特になし			
特記事項	<p>○事前・事後課題の有無：　事前に意識調査アンケート課題を予定。事後課題:作品の撮影</p> <p>○資料の配布方法：　研修会専用ホームページよりダウンロード</p> <p>○受講する上での環境条件等：　特になし</p>			

令和6年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高美6】
【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（美術） **【実施日】令和6年12月12日（木）**

担当大学名	京都市立芸術大学			
会 場	(会場名) 京都市立芸術大学			
	(所在地) 京都市下京区下之町 5 7 番 1			
講 師 (肩書・氏名)	井上 明彦（京都市立芸術大学名誉教授） 飯田 真人（京都市立芸術大学美術学部教授）			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	40名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	「京芸のそうきそ～大学初年次プログラム『総合基礎実技』の授業から学ぶ～」		
研修内容の概要	本学では40年以上の実績がある領域横断型の授業「総合基礎実技」を開講しています。受験実技から創作の世界へとスタートを切る上で、非常に重要なプログラムとして、この授業を位置付けています。美術学部の新入生は所属の科に関係なく、個人やグループで課題に取り組み、指導も様々な教員が担います。各領域に通じるテーマが設定され、テーマに基づく課題を展開し、展示として成果を発表しています。今回の研修では総合基礎実技の授業の概要や実際の授業を体験し、そこから造形的な見方・考え方や主体的・協働的な学びの実践方法について学びます。		
	[学習指導要領との関連] 【中学校美術科】「A表現」(1)ア(ア)、(2)ア(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)ア(ア)、イ(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ 【高等学校芸術科】美術／「A表現」(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)ア(ア)、イ(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ		
内容と方法	はじめに、総合基礎実技の概要や実施するようになった背景、実技課題や作品のアーカイブをもとに現状について講義を行います。その後これまで実施してきた課題を参考に研修特別編として「オートマティック！じどうするびじゅつ」を体験してもらいます。これはAIに代表される高度情報テクノロジーが人間に与え、また人間から奪うものは何かを、実践的に考え、思索を共有していくことは美術と美術教育の大きな課題と考えます。この課題では、人間の主観を越える「オートマティズム」を新しくとらえなおし、各人で「自動」をキーワードに「作品」制作に取り組みます。（自動制作装置の制作、自動的プロセスを組み込んだ作品、自動する作品、ロボット？などなど）		
到達目標	子どもたちが枠組みにとらわれない多様な表現活動を通して、造形的な視点を広げ、自ら主題を豊かに生み出し、造形的な思考力を深めることができます。また、美術の協働的な学びの機会を通して相互理解を働かせることができます。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）	動画視聴
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～11:15	美術の授業における協働的な学びについて（飯田真人）	参集
	11:20～12:00	京都市立芸術大学美術学部の総合基礎実技について（井上明彦）	参集
	12:00～13:00	昼休み	
	13:00～16:00	実践研修（制作）	参集 グループワーク
	16:00～16:40	プレゼンテーション（相互講評会）	参集 グループワーク
	16:40～17:00	全体振り返り	参集
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	後日参加者に個別連絡します。制作しやすい服装で参加ください。		
特記事項	特になし		

令和 6 年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高美 7】
【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（美術） **【実施日】令和 6 年 1 2 月 1 2 日（木）**

担当大学名	女子美術大学			
会 場	(会場名) 女子美術大学 相模原キャンパス			
	(所在地) 神奈川県相模原市南区麻溝台1900			
講 師 (肩書・氏名)	福田笑子（女子美術大学非常勤講師）、鈴木淳子（女子美術大学教授）			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	10名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	「線による造形 ー編組法を用いたタペストリー制作と評価の実際」		
研修内容の概要	本講座は、立体を編む「かごづくり」の編組法を用いて半立体のタペストリーを制作することで、創造的な表現へとつなげる実技研修である。線の素材としてラフィアや樹皮、棒状の小枝など様々な自然素材を用い、「結ぶ」「巻く」「組む」「編む」の手法を生かして多様な形態の造形を試みる。自らのイメージを色や形に反映させ、線の組み合わせによる造形表現の楽しさを味わうとともに、編組法を用いて平面や立体の作品をつくる題材への応用と授業展開の方法を探る。さらに実践事例を紹介し、評価方法として用いた「振り返りシート」の記録を基に、評価規準、評価の在り方について多角的に考察する。		
	[学習指導要領との関連] 【中学校美術科】「A表現」(1)ア(ア)、(2)ア(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)ア(ア)、〔共通事項〕(1)ア、イ 【高等学校芸術科】美術Ⅰ／「A表現」(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)ア(ア)、〔共通事項〕(1)ア、イ 美術Ⅱ／「A表現」(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)、「B鑑賞」(1)ア(ア)、〔共通事項〕(1)ア、イ 美術Ⅲ／「A表現」(1)ア(ア)、イ(ア)、「B鑑賞」(1)ア(ア)、〔共通事項〕(1)ア、イ		
内容と方法	編組法の基礎的な「結ぶ」「巻く」「組む」「編む」の技法を紹介し、課題説明、プランニングを行う。実技「編組法を用いたタペストリー」では、参加者各自が編組法の基礎的技法を組み合わせ制作を行い、「作品発表」において作品の感想や題材への応用について意見交換を行う。「評価方法の紹介、ディスカッション」では、制作した作品や学生作品、「制作振り返りシート」を基に、実際の授業での評価規準の設定や評価方法の工夫についてディスカッションする。		
到達目標	・編組法の基礎的な技法を習得し、線の材料を用いて作品制作を行い、新たな題材、授業展開を構想する。 ・制作した作品、実践事例を基に、学習評価についての理解を深める。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴
	11:00～12:00	「研修テーマと趣旨」	鈴木 参集
		「バスケットリー」編組法の紹介、課題説明、プランニング	福田 参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:00	実技「編組法を用いたタペストリー」	福田 各自作業
	14:00～14:20	鑑賞	福田・鈴木 参集
	14:20～14:30	休憩	
	14:30～16:00	実技「編組法を用いたタペストリー」	福田 各自作業
	16:00～16:30	作品発表	福田・鈴木 参集
	16:30～17:00	評価方法の紹介、ディスカッション	福田・鈴木 参集
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	筆記用具、汚れてもよい服装（エプロン、作業着）		
特記事項	○事前課題なし ○資料の配布方法：研修会場で配布する。 ○受講する上での環境条件等：無		

令和6年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高美8】

【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（美術）

【実施日】令和6年12月13日（金）

担当大学名	常葉大学			
会 場	(会場名) 常葉大学 瀬名キャンパス (本館305コンピュータ室)			
	(所在地) 静岡市葵区瀬名1-21-1			
講 師 (肩書・氏名)	教授・合津正之助			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容

テーマ	「造形的な見方・考え方」を働かせて、見て考える鑑賞活動とICT機器を活用して描く表現活動			
研修内容の概要	<p>絵画解釈（図像学）による鑑賞活動へのアプローチを試みることにより、造形を豊かに捉える多様な視点である造形的な視点について確認する。また、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」という教科を学ぶ意義の中核をなす「造形的な見方・考え方」を働かせられるような学習活動とその指導方法等について考え、美術科の「深い学び」の実現を目指す。</p> <p>また、無料描画作成アプリとノートPC（タブレットの代用）を活用し絵を描くことを通して、造形を豊かに捉える多様な視点で、形や色彩、材料や光などの造形要素に着目し、その働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりすることなどについて考える。</p>			
	<p>[学習指導要領との関連]</p> <p>【中学校美術科】「A表現」(1)ア(ア)、(2)ア(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)ア(ア)、〔共通事項〕(1)ア、イ</p> <p>【高等学校芸術科】美術Ⅰ／「A表現」(1)ア(ア)(イ)、イ(イ)、「B鑑賞」(1)ア(ア)、〔共通事項〕(1)ア、イ</p>			
内容と方法	<p>◆「見て考える鑑賞活動」（前半：1時間50分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵画を解釈すること（図像学）について、ボティッチェリ作『ラ・プリマベラ（春）』の図像解釈とその説明を通して、その基礎的な事柄を学び、提案する鑑賞活動の概要を事例により理解する。（1／4） ・ゴッホ作『夜のカフェテラス』を鑑賞教材の主として扱いながら、特徴あるゴッホの作品群から彼の心情や意図、創造的な工夫などについて考えたり、美術の働きや美術文化について考えたりするなどして見方や感じ方を広げたり深めたりする。その際、学習の指導方法等についても解説し、その充実を図ると共に自分なりの意味や価値をつくりだす活動を提案する。（2／4） <p>（資料の配布とともにICT機器を活用して行う。）</p> <p>◆「ICT機器を活用して描く表現活動」（後半：2時間20分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無料デジタルペインティング・描画アプリ「Adobe・Fresco」について、PCやタブレットにインストールする段階から解説する。アカウント等の問題からインストールは行わず、今回は既にアプリが使用できる状態から開始し、その特徴と教育的効果、簡単な操作方法や指導上留意する点等を簡単な事例を実際に扱いながら演習する。（3／4） ・身近な対象としての自分を表す「自画像」をアプリを活用して描いていく。今回の研修では、水彩画風と油彩画風を選択して描くことができる。 ・完成した作品（A3もしくはB3サイズ）はプリントアウトし、受講生がお互いに鑑賞するとともに全体での講評会を実施する。 <p>この時、各自で作成した作品とゴッホの自画像全36作品とをあわせて鑑賞する。（4／4）</p> <p>（資料の配布とともにICT機器を活用して行う。）</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な視点について理解し、ICT機器を活用しながら、意図に応じた表現方法を工夫して表すことができるようにする。 ・造形的な視点を豊かにし、発想や構想を基に表現方法を追求する。 ・美術において、生徒が何を理解し、何ができるようになったかを明確にし、それらをどのように人生や社会で生かそうとするかについて協議することを通して、学習活動の質を向上させる「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について考える。 			

（次ページへ続く）

		実施内容	実施方法
スケジュール	9:00～9:30	受付（3号館 1 階3110教室）	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（3号館 1 階3110教室）	動画視聴
	10:45～11:00	休憩・会場移動（本館305コンピュータ室）	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修「見て考える鑑賞活動」（午前の部）	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～13:50	テーマ別実践研修「見て考える鑑賞活動」（午後の部）	参集
	13:50～14:00	休憩および準備	PCの準備等を含む
	14:00～15:00	テーマ別実践研修「ICT機器を活用して描く表現活動」（午後の部）	参集および作業
	15:00～15:10	休憩	
	15:10～16:30	テーマ別実践研修「ICT機器を活用して描く表現活動」（午後の部）	参集および作業
	16:30～16:40	休憩・会場移動	
	16:40～17:00	全体の振り返り	参集
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・ 持ち物等	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記用具 ・完成作品のデータを保存する記憶媒体（USBメモリー等）もしくはクラウドストレージ・サービスが利用できる状態であること 		
特記事項	<p>○資料の配布方法：研修会当日、会場にて配布</p> <p>○事前・事後課題の有無： 無</p>		

令和6年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中美高工4】
【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（工芸） **【実施日】令和6年12月13日（金）**

担当大学名	東京藝術大学			
会 場	(会場名) 東京藝術大学美術館会議室2・資料調査室及び美術学部木工室			
	(所在地) 台東区上野公園12-8			
講 師 (肩書・氏名)	黒川廣子（東京藝術大学美術館 館長） 渡邊五大（東京藝術大学美術研究科美術教育研究室 教授） 西山大基（美術研究科美術教育研究室 テクニカルインストラクター） 初山逸平（美術研究科美術教育研究室 テクニカルインストラクター） 成島麻世（美術研究科美術教育研究室 教育研究助手）			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（工芸）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	「工芸作品」と「作品をつくる道具」についての鑑賞教育		
研修内容の概要	大学美術館収蔵作品の鑑賞演習と美術学部木工室での木工道具の取り扱いについての実習 ・優れた工芸作品を鑑賞することによって、日本の工芸の伝統と文化について考え、見方や感じ方を深める。 ・身近な生活や社会的な視点に立ち、よさや美しさなどを感じ取るとともに、制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深める。 ・工芸制作における様々な道具についての適切な使用方法や、道具ができるまでの「仕立て方」等を体験することにより技術や技法について考え、意図に応じて生かすことができるようにする。		
	[学習指導要領との関連] 【中学校美術科】「A表現」(1)イ(ウ)、(2)ア(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)ア(イ)イ(ア)(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ 【高等学校芸術科】工芸Ⅰ／「A表現」(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)ア(ア)、イ(ア)(イ)、〔共通事項〕(1)アイ		
内容と方法	大学美術館教員から収蔵作品についてレクチャーを受け、作者の心情や意図、制作過程による工夫や素材の生かし方、作者の歴史等について考える。その後に、美術館資料調査室に移動し、作品や作者の歴史背景と素材等の解説を聞くとともに、実作品の鑑賞を行う。午後は木工室に移動し、木工室教員による木材からの「カンナ台の作り方と仕立て」について、講師の実演とともに体験し、カンナ台の調整によって木材の切れ味などの違いも体感する。		
到達目標	工芸作品とそれらを生み出す道具の特性や技能を活かして、それらの造形美やよさを感じ取り、生活や社会を心豊かにする工芸の働きに関する鑑賞の活動について工夫することができるようにする。今後の授業の題材としての可能性と指導方法を考え、授業改善に向けて生徒の興味や関心を高める鑑賞や表現の視点や方法を考察できるようにする。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴
	10:45～11:00	休憩	
	11:00～12:30	収蔵工芸作品のレクチャーおよび鑑賞	参集
	12:30～13:20	昼食	
	13:20～16:30	木工道具の解説と「刃物の研ぎ」「道具の仕立て方」実習	参集
	16:40～17:00	全体振り返り	参集
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	筆記用具、エプロンまたは作業着 * 足指の露出しているサンダル等での参加はできません		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無し ○受講する上での環境条件等：無し		

令和 6 年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中美高工 5】
【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（工芸） **【実施日】令和 6 年 1 2 月 1 3 日（金）**

担当大学名	東京造形大学			
会 場	(会場名) 東京造形大学			
	(所在地) 〒192－0992 東京都八王子市宇津貫町1556			
講 師 (肩書・氏名)	准教授 井関大介（インダストリアルデザイン専攻領域） 教授 山田猛 （教職課程）			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（工芸）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	アイデアを形にー3Dプリンターを活用したマケット作成ー		
研修内容の概要	・ インダストリアルデザイン専攻領域教員による3Dプリンターを活用したマケット制作を通して、発想や構想を練ることから、用と美についての考察を深める。 ・ 教職課程教員とのTTにより、発想や構想を練ることから用と美について検討し、右脳と左脳、制作と言語活動、生徒と指導者の視点等、それぞれの往還によるスパイラル的なイメージ生成を目指し工芸の授業デザインを目指す。		
	[学習指導要領との関連] 【中学校美術科】「A表現」(1)イ(ウ)、 (2)ア(ア)(イ)、B鑑賞 (1)ア(イ) 、〔共通事項〕(1)ア、イ 【高等学校芸術科】工芸Ⅰ／「A表現」(1)ア(ア)(イ) 、イ(ア)(イ) 、「B鑑賞」 (1)ア(ア)、〔共通事項〕(1)ア、イ		
内容と方法	・ 用と美を考慮しながら、言語活動やアイデアスケッチを通して求める形を発想する。 ・ 発想から立体物制作に繋げるための構想を練ることから、3Dプリンターを活用してマケットを制作する。 ・ マケットから用と美について考察を深める。 ・ 研修全般を通して、右脳と左脳、制作と言語活動、個とグループ協議、生徒と指導者の視点等、それぞれの往還によるスパイラル的な質の高まりを目指す。		
到達目標	3Dプリンターを活用したマケット制作を通して、発想や構想をすることを通して用と美について深く考察することで、題材開発や授業デザインに繋がる新たな気づきや視点を生み出す。その過程において、右脳と左脳、制作と言語活動、生徒と指導者の視点等、それぞれの往還によるスパイラル的な質の高まりを目指す。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	オリエンテーション、レクチャー①、制作活動導入	参集／受講
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:45	演習①制作	参集／制作
	14:45～15:00	レクチャー②	参集／受講
	15:00～16:40	演習②制作	参集／グループワーク
	16:40～17:00	全体振り返り	参集
17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	筆記用具		
特記事項	○事前・事後課題の有無： 無 ○資料の配布方法： 研修会当日配布 ○受講する上での環境条件等：学食、学内コンビニエンスストア、学食スペース及び学内カフェテリア飲食スペース利用可。学外近隣には飲食店がありませんのでご注意ください		

令和6年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中美高工6】
【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（工芸） **【実施日】令和6年12月13日（金）**

担当大学名	常葉大学			
会 場	(会場名) 常葉大学瀬名キャンパス			
	(所在地) 〒420-0911 静岡県静岡市葵区瀬名1-22-1			
講 師 (肩書・氏名)	山本浩二、磯崎えり奈			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（工芸）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	12名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容	
テーマ	つかみはOK！手と素材が導く意外な造形 自分だけのフックや取っ手をつくっちゃおう！
研修内容の概要	<p>フックや取っ手はインテリアやプロダクトにおいて人の生活に関わる小物であり脇役と見られがちである。しかしその脇役は、全体の雰囲気やデザインに大きな影響を与える存在でもある。脇役であるフックや取っ手に注目し、主役になることで意外な場所や使い方のアイデアを考え、フックや取っ手というものの自体のあり方や世界を広げたい。</p> <p>[学習指導要領との関連]</p> <p>【中学校美術科】「A表現」(1)イ(ウ)、(2)ア(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)ア(イ)、イ(ア)、「共通事項」(1)ア、イ</p> <p>【高等学校芸術科】工芸Ⅰ／「A表現」(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)ア(ア)、イ(ア)、「共通事項」(1)ア、イ</p>
内容と方法	<p>内容：</p> <p>フックや取っ手について、真鍮や銅を用いて制作する。金属の持つ特性を活かして、棒材や板材を曲げたり叩いたりといった加工をすることで制作を行う。フックや取っ手は、家具や道具になくはないが、多くは小さな部品である。しかしそのデザインは製品全体の雰囲気に大きな影響を与える存在でもある。例えば、カップや鍋における器としての形状は回転体となる場合が多く、似たような印象になりがちだが取っ手で変化をつけることができる。掴むための取っ手があること、そのための穴が空いていること、何かを引っかけるフックがあることなど、形状や用途などからアイデアが広がるであろう。素材に触れ、手づくりながらアイデアを出し、制作を進めたい。また、手が触れる部品としての使いやすさや合理性についても考えを深めたい。</p> <p>方法：</p> <p>①説明。アイデア出し。一人ずつフックや取っ手をつけたい場所や物を発表する。(30分) 磯崎</p> <p>②見本やデモンストレーションを見て、どのような形にするか考える。(30分) 山本</p> <p>③素材に触れながら練習を行う。道具の使い方と加工技術を学ぶ。(20分) 磯崎</p> <p>④材料の切り出しと加工。切り口を金やすりで研磨。ドリルで穴あけ。時間節約のため電動糸鋸、バンドソー、ベルトサンダー、グラインダーなど機械を使用(130分) 磯崎・山本</p> <p>⑤仕上げ。金やすり、紙やすり、重曹、研磨剤などを使用する。(30分) 山本</p> <p>⑦鑑賞。 フックや取っ手をどういった場面で使うのかなど作品を鑑賞する。(20分) 磯崎・山本</p> <p>⑧振り返り(20分)</p>
到達目標	<p>道具や工具の使い方や安全性、素材の特徴について理解し、金属の基本的な加工技術を習得する。</p> <p>素材に触れながら、面白い形、ユニークなアイデアを考え、発想力を広げる。</p> <p>フックや取っ手という小物から派生して用途や空間を考えることで、人とモノの接点について思考を深める。</p>

(次ページへ続く)

		実施内容	実施方法
スケジュール	9:00～9:30	受付（3号館 1 階3110教室）	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴
	10:45～11:00	休憩	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）	全体説明
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～16:40	テーマ別実践研修（午後の部）	参集
	13:00～16:20	制作	道具の説明・各自作業
	16:20～16:40	鑑賞	グループワーク・全体
	16:40～17:00	全体の振り返り	参集
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	フックや取っ手をつけたいもので、持参できる大きさのもの。例：金属製カップや鞆、木材や布類など穴あけが可能なもの。作業着（長袖、長ズボン、くるぶしが隠れる靴下、綿素材が望ましい）、スニーカーなどの作業靴。		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロードする。 ○事前・事後課題の有無：具体的にフックや取っ手をつけたい場所や家具、道具などを考えておくこと。 ○受講する上での環境条件等：工房では換気が良くなるようドアを開け放しているため気温が低い。そのため、防寒できる物を着用すると良い。		

令和6年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【高書2】

【分科会】高等学校芸術科（書道）

【実施日】令和6年12月11日（水）

担当大学名	福岡教育大学			
会 場	(会場名) 福岡教育大学			
	(所在地) 福岡県宗像市赤間文教町1 - 1			
講 師 (肩書・氏名)	福岡教育大学教授 和田圭壮 日展会員 永守蒼穹 愛知県立松蔭高等学校教諭 加藤眞太郎			
対 象	高等学校芸術科（書道）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	40名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	書道教育における「漢字仮名交じりの書」の創作指導の工夫　－作品の構想と表現の工夫の視点－			
研修内容の概要	現職教員の講師による教育現場の課題の発表と研修会参加者による協議、書壇で活躍している講師による「漢字仮名交じりの書」の創作についての実技指導と研修会参加者の実技演習、教科調査官による指導・講評を通して、新学習指導要領の趣旨と「漢字仮名交じりの書」の創作並びに授業での指導の工夫について理解を深める。			
	[学習指導要領との関連] 【高等学校芸術科】書道 「A表現」(1)「漢字仮名交じりの書」ア(ア)(イ)(ウ)、イ(ア)(イ)、ウ(ア)(イ) 「B鑑賞」(1)「鑑賞」ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)(ウ)、〔共通事項〕(1)ア、イ			
内容と方法	・教科調査官による理論研修（高等学校芸術科書道に係る行政面からの解説） ・現職教員による授業研究発表（「書道Ⅰ」「漢字仮名交じりの書」の創作）と研修会参加者による協議 ・書壇で活躍している講師による「漢字仮名交じりの書」の実技指導と解説、研修会参加者の実技演習 ・教科調査官による指導・助言			
到達目標	・学習指導要領の趣旨と高等学校芸術科書道の指導内容、授業改善の視点について理解を深める。 ・「漢字仮名交じりの書」における作品の構想と表現の工夫について、実技演習を通して理解を深める。 ・学習指導要領の趣旨を踏まえた「漢字仮名交じりの書」の授業並びに創作指導を工夫できるようにする。			
スケジュール		実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修		動画視聴・教科調査官による講義
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）		参集（研究発表）
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～14:00	テーマ別実践研修（午後の部①）		参集（協議）
	14:00～14:15	休憩		
	14:15～16:30	テーマ別実践研修（午後の部②）		参集（実技指導・演習）
	16:30～16:40	休憩		
	16:40～17:00	教科調査官による全体講評		
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	書道用具（下記資料とともに指示）、『高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）解説 芸術編』（書道記載部分）			
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無し ○受講する上での環境条件等：無し			